

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

事業名 「やきものワールド」参加負担金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 地場産業振興係 電話番号：058-272-1111(内3784)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,500 千円 (前年度予算額： 1,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,500	0	0	0	0	0	0	0	1,500
要求額	1,500	0	0	0	0	0	0	0	1,500
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・陶磁器産業は、日本人のライフスタイル・価値観の変化や安価な外国製品の流入など市場環境は厳しい状況にあり、新規の販路開拓や商品開発の支援が必要である。
- ・平成18年以来、名古屋ドームを会場に開催してきたイベント。平成30年には名称を「やきものワールド」と改め、名古屋城（屋外）へ場所を移し、海外からの来場者にも日本のやきもの文化を発信。翌年からはドルフィンズアリーナ（愛知県体育館）で開催。
- ・本イベントは、出展する美濃焼産地のメーカー・商社にとって、エンドユーザーの反応や他産地の情報を入手できることで商品開発に役立つとともに、大都市圏の消費市場へ美濃焼をPRし新規顧客を獲得できる、非常に有効なイベントである。
- ・そのため、本イベントを主催する「やきものワールド実行委員会」への参画を通じて、美濃焼産地のメーカー・商社を支援する。

(2) 事業内容

<やきものワールド 2023 (仮) 概要>

- ・開催時期 令和5年11月下旬 (予定)
- ・開始場所 ドルフィンズアリーナ (愛知県体育館)
- ・主 催 やきものワールド実行委員会 (事務局：テレビ愛知)
- ・概 要 東海3県を中心に全国各地の焼き物が一堂に集い、実際に手にとってその魅力に触れてもらう。さらに、焼き物の見せ方や使い方を提案する特別イベント・コーナーを設け、来場者の満足度を向上させる。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・実行委員会構成団体が応分の負担を実施しており、県負担は妥当
(※当県の負担率は全体事業費の4%程度)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	1,500	実行委員会負担金
合計	1,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2019～2023年度）
3 地域にあふれる魅力と活力づくり
(2)次世代を見据えた産業の振興

(2) 国・他県の状況

愛知県も実行委員会に参画し、岐阜県と同程度負担する予定。

(3) 後年度の財政負担

岐阜県単独で美濃焼を全国に発信、PRしていくイベント開催と比較し、少額の負担で効果を生み出すことができ、引き続き支援していく。

(4) 事業主体及びその妥当性

総事業費の半額以上を民間からの負担金・協賛金で運営できており、現行の実行委員会方式での開催は妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 陶磁器産業の販路開拓と美濃焼のPRを促進することで、陶磁器業界の市場拡大と自立を促すとともに、美濃焼のブランド力向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①入場者数 (人)	/	55,893	100,000	100,000		

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 ○会 期：令和2年11月26日（木）～12月2日（水） 7日間 ○開催場所：ドルフィンズアリーナ（愛知県体育館） ○来場者数：45,566人 参加者満足度も非常に高く、陶磁器産業の振興に大きく貢献できている。 <p>指標① 目標：100,000人 実績：45,566人 達成率：46%</p>
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 ○会 期：令和3年11月26日（金）～12月2日（木） 7日間 ○開催場所：ドルフィンズアリーナ（愛知県体育館） ○来場者数：55,893人 ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった令和2年度と比較して来場者数は123%増加した。 ・本県単独で美濃焼を全国に発信、PRすることと比較し、少額の負担で大きな効果を生み出すことができるイベントであり、陶磁器産業の振興、活性化のため、引き続き他団体と連携して本事業を実施していく。 <p>指標① 目標：100,000人 実績：55,893人 達成率：56%</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	多くのイベントで構成される日本最大級の陶磁器イベントであり、美濃焼をはじめ全国の陶磁器産地の窯元が出展する中、美濃焼産地からの出展は最多である。本県が実行委員会に参加することで、県内陶磁器メーカーの出展料が減免される等のメリットもあり、事業実施の必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	美濃焼のPRを通じたブランド力向上や販路開拓の場となっているほか、県内企業が消費者の反応や評価を直接把握でき、全国の他メーカーとの情報交換を図ることもでき、マーケティングや商品開発の側面からも有効な事業である。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	民間企業や隣県と共同開催することで、比較的小さな負担(負担金は総事業費の約4%)で効率的な成果を生み出すことが可能。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 陶磁器産業は、日本人のライフスタイルの変化や安価な外国製品の流入など厳しい状況下であり、販路開拓や商品開発に向けた支援が必要である。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 陶磁器メーカーのみならず、一般参加者の満足度も極めて高い事業であり、陶磁器産業の振興、産地の活性化のため、引き続き実施していく。
